

# 医療面接

責任者名：上原 任

学期：前期

対象学年：4年

授業形式等：演習

## ◆担当教員

内容は A 分野(初診時に必要な診断学の知識)・B 分野(初診時医療面接の実践)・C 分野(初診時の医療面接と診査の詳細)に分かれている。

予定表を確認すること。

上原 任(医療人間科学 専任講師)

野間 昇(口腔内科学 教授)

篠崎 貴弘(口腔内科学 専任講師)

小笹 佳奈(口腔内科学 助教)

三澤 麻衣子(医療人間科学 専任講師)

紙本 篤(総合歯科学 准教授)

関 啓介(総合歯科学 専任講師)

古地 美佳(総合歯科学 専任講師)

竹内 義真(総合歯科学 助教)

柏木 純子(医療人間科学 兼任講師)

寺嶋 利子(医療人間科学 兼任講師)

本橋 佳子(医療人間科学 兼任講師)

中島 一郎(医療人間科学 教授)

## ◆一般目標 (GIO)

現代の医療において、患者と十分なコミュニケーションをとることは必須条件である。本教科では、第3学年「医療コミュニケーション」で学修した知識と技能を実践的に応用し、すべての医療行為の入口としての医療面接の重要性を理解を通じて、診療参加型臨床実習で必要となる知識・技能・態度を身につける。

## ◆到達目標 (SBO s)

- ①医療面接の目的とプロセスを説明できる。(知識)
- ②医療における臨床推論の説明ができる。(知識)
- ③診療におけるクリニカルパスの概要を述べる。(知識)
- ④患者の心理状態や理解度に配慮できる。(技能・態度)
- ⑤医療面接から医療情報の提供・収集ができる。(技能・態度)
- ⑥口腔内・外の診査を適切に行なう。(技能・態度)

## ◆評価方法

小テスト(10回)20%・演習成果物(5回)10%・平常試験(技能に関する課題)20%・定期試験 50%で評価する。

小テストに対するフィードバックは当該授業時間中に、演習成果に対するフィードバックは当該授業時間または翌週以降の授業時間内に、平常試験(技能に関する課題)に対するフィードバックは翌週以降の授業時間内に実施する。

提出を指示した演習成果等の未提出や参加態度不良は減点の対象とする。

全時間の出席が前提なので、欠席した場合は補完授業を受けること。

無断欠席は大幅な減点の対象とする。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
上原 任	月曜日 17:00～18:00 3号館3階医療人間科学研究室	uehara.tamotsu@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
野間 昇	月曜日 17:00～18:00 本館6階口腔内科学教授室	noma.noboru@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
篠崎 貴弘	月曜日 17:00～18:00 本館6階口腔内科学研究室	shinozaki.takahiro@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
三澤 麻衣子	月曜日 12:00～13:00 3号館3階医療人間科学研究室	oshikawa.maiko@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
紙本 篤	月曜日 17:00～18:00 本館3階総合診療科医局	kamimoto.atsushi@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
関 啓介	月曜日 17:00～18:00 本館3階総合診療科医局	seki.keisuke@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
古地 美佳	月曜日 17:00～18:00 本館3階総合診療科医局	furuchi.mika@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
竹内 義真	月曜日 17:00～18:00 本館3階総合診療科医局	takeuchi.yoshimasa@nihon-u.ac.jp	来室する場合は事前にメールで連絡すること。
柏木 純子	授業終了後に質問を受け付ける。 それ以外の場合は上原に連絡すること。		
寺嶋 利子	授業終了後に質問を受け付ける。 それ以外の場合は上原に連絡すること。		
本橋 佳子	授業終了後に質問を受け付ける。 それ以外の場合は上原に連絡すること。		

## ◆授業の方法

演習形式の科目である。基礎的な知識については講義を行う。

実践的内容については視聴覚教材を題材にしたディスカッションを主体に演習を行う。

演習成果の提出を指示したものは評価の対象なので必ず提出すること。

【実務経験】上原 任、野間 昇、篠崎 貴弘、小笹 佳奈、紙本 篤、関 啓介、古地 美佳、竹内 義真：日本大学歯学部付属歯科病院での経験等の話も交えながら、臨床現場において本教科で学ぶコミュニケーションの理論や技法がいかに活かされるかについて学ぶ機会を提供する。

柏木純子：日本大学歯学部での模擬患者としての経験に基づき、医療面接場面での望ましい医療者の態度等について学ぶ機会を提供する。

## ◆アクティブ・ラーニング

視聴覚教材に基づくグループディスカッションによる演習を行う。

## ◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1	スタンダード社会歯科学	石井 拓男 他	学建書院	2018 以降
教科書 2	はじめての医療面接	斎藤 清二	医学書院	2000
プリント	プリント配付			

## ◆DP・CP

[DP-6] コンピテンス：コミュニケーション力

コンピテンシー：医療をはじめとする様々な場面において、他者との円滑な意思の疎通を行い、互いに価値観を共有し、適切なコミュニケーションを実践して自らの考えを発信することができる。

[CP6] 他者の意見を尊重し、明確な意思疎通のもと、円滑な人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を養成する。

[CP7] 歯科医師の責務を自覚して、責任あるリーダーシップを発揮し、患者を中心としたチーム医療における適切なコミュニケーション能力を養成する。

## ◆準備学習(予習・復習)

第3学年で履修済の内容については各自で復習しておくこと。

事前に教科書を読んで、授業内容の概要を理解しておくこと。とくに、指定箇所は必ず読んでおくこと。

準備学習が指示された場合には必ず予習をしていくこと。とくに、演習内容に関わるものは必ず予習しておくこと。

復習は次回への後期の科目への準備になるので積極的に行うこと。

## ◆準備学習時間

授業時間は合計 30 時間である。さらに 15 時間以上を予習・復習に充てる必要がある。

予習・復習の内訳は各自に一任する。

◆全学年を通しての関連教科

第2学年・前期・医療と倫理

第2学年・後期・プロフェッショナリズムと行動科学

第3学年・前期・医療と福祉

第3学年・後期・医療コミュニケーション

第4学年・後期・診査診断学実習

◆予定表

回	クラス	月日	時間	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1		4.6	6	A 分野① 1. 全人的医療 1)患者本位の医療 2)医療コミュニケーション (教2)pp.1-23 「小テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代歯科医療において人間性がいかに重要視されているかということを理解する。</li> <li>・患者本位の医療が求められる社会的背景について理解する。</li> <li>・医療情報の伝達方法としてのコミュニケーションを考える。</li> <li>・医療面接と問診との相違を説明できる。</li> <li>・第3学年で学修済の内容を含むプレテストに解答する。</li> </ul>	上原 任 中島 一郎	C-1-1 医の倫理と患者中心の視点 C-1-2 歯科医師としての責務と裁量権
2		4.6	7	A 分野② 1. 全人的医療 3)臨床推論 「小テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の病状から、どのような臨床推論を行なうのかを知る。</li> <li>・具体的な臨床症状を想定して、それぞれの医療面接における情報収集の方法を知る。</li> <li>・クリニカルパスウェイの意義を理解する。</li> <li>・歯科臨床における診査・診断方法を理解する。</li> <li>・学修内容に関連した課題に解答する。</li> </ul>	篠崎 貴弘	E-3-1 基本的診断 E-3-2 臨床推論
3, 4		4.13	6 ～ 7	A 分野③④ 2. 口腔疾患のクリニカルパスウェイ 1)口腔内外診査の持つ意義 2)歯の診査と軟組織診査 「小テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔外診査と口腔内診査の意義について学ぶ。</li> <li>・歯だけでなく口腔を一単位で診る重要性を学ぶ。</li> <li>・硬組織診査で何を診るかを学ぶ。</li> <li>・軟組織診査で何を診るかを学ぶ。</li> <li>・口腔外診査の情報と口腔内診査の情報を結びつけることを学ぶ。</li> <li>・各種疾患の診断方法について学ぶ。</li> </ul>	野間 昇	D-2-2 口腔、顎顔面領域の診察、検査 E-2-3 全身の診察と検査による全身状態の把握 E-3-1 基本的診断 E-3-2 臨床推論

					・学修内容に関連した課題に解答する。		論
5,6		4.20	6 ～ 7	A 分野⑤ 2. 口腔疾患のクリニカルパスウェイ 3)全身疾患と口腔症状 「小テスト」	・歯科臨床で問題となる全身疾患の種類について学ぶ。 ・全身疾患に随伴する口腔症状について学ぶ。 ・全身疾患の診断と治療方法について学ぶ。 ・学修内容に関連した課題に解答する。	篠崎 貴弘	D-2-2 口腔、顎顔面領域の診察、検査 E-2-3 全身の診察と検査による全身状態の把握 E-3-1 基本的診断 E-3-2 臨床推論
7,8		4.27	6 ～ 7	A 分野⑦⑧ 4. 心療歯科(1) 「小テスト」	・歯科臨床で問題となる精神心理疾患について学ぶ。 ・精神心理的問題と歯科治療について学ぶ。 ・学修内容に関連した課題に解答する。	篠崎 貴弘	D-5-9 精神・心身医学的疾患の歯科治療 E-2-1 初診時の医療面接 E-3-1 基本的診断 E-3-2 臨床推論
9,10		5.11	6 ～ 7	A 分野⑨⑩ 4. 心療歯科(2) 「小テスト」	・心理的問題が影響する歯科疾患について学ぶ。 ・口臭症、舌痛症について学ぶ。 ・味覚障害、口腔乾燥症について学ぶ。 ・学修内容に関連した課題に解答する。	篠崎 貴弘	D-5-9 精神・心身医学的疾患の歯科治療 E-2-1 初診時の医療面接 E-3-1 基本的診断 E-3-2 臨床推論
11,12		5.25	6 ～ 7	B 分野① 5. 医療面接におけるコミュニケーション技法 1)非言語的・準言語的コミュニケーション (教1)pp.19-31	・患者シナリオを題材に、非言語的・準言語的コミュニケーションの在り方を知る。 ・各種傾聴技法を再確認する。 ・演習によって理解を深める。 ・演習成果物を提出する。	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション) E-2-1 初診時の医療面接 E-4-3 インフォームド・コ

				(教2)pp.23-31			ンセント
13,14	6.1	6～7	B分野② 5. 医療面接におけるコミュニケーション技法 2)医療面接の前半 (教1)pp.19-31 (教2)pp.23-75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者シナリオを題材に、初診時医療面接の前半で行う事を説明できる。</li> <li>・主訴・現病歴・解釈モデルとは何か説明できる。</li> <li>・主訴・現病歴・解釈モデルを聴取できる。</li> <li>・演習によって理解を深める。</li> <li>・演習成果物を提出する。</li> </ul>	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション) E-2-1 初診時の医療面接 E-4-3 インフォームド・コンセント	
15,16	6.8	6～7	B分野③ 5. 医療面接におけるコミュニケーション技法 3)医療面接の後半 (教1)pp.19-31 (教2)pp.23-75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者シナリオを題材に、初診時医療面接の後半で行う事を説明できる。</li> <li>・主訴・現病歴・解釈モデルを聴取できる。</li> <li>・既往歴・患者背景とは何か説明できる。</li> <li>・既往歴・患者背景を聴取できる。</li> <li>・演習によって理解を深める。</li> <li>・演習成果物を提出する。</li> </ul>	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション) E-2-1 初診時の医療面接 E-4-3 インフォームド・コンセント	
17,18	6.15	6～7	B分野④ 5. 医療面接におけるコミュニケーション技法 4)医療面接の終結 (教1)pp.19-31 (教2)pp.23-75	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者シナリオを題材に、初診時医療面接における情報収集と患者医療者関係の構築ができる。</li> <li>・必要な情報を聴取し、良好な信頼関係を確立できる。</li> <li>・他者の医療面接を評価し、改善すべき点を発見できる。</li> <li>・演習によって理解を深める。</li> <li>・演習成果物を提出する。</li> </ul>	上原 任 三澤 麻衣子 寺嶋 利子 本橋 佳子	D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション) E-2-1 初診時の医療面接 E-4-3 インフォームド・コンセント	
19,20	6.22	6～7	B分野⑤ 5. 医療面接におけるコミュニケーション技法 5)ノンバーバルコミュニケーション 【とくに患者から見た医療コミュニケーション】 (教1)pp.19-31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーバルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションで相手に伝わる情報に違いがあることを説明できる。</li> <li>・メッセージとメタメッセージについて説明できる。</li> <li>・コンテンツとコンテキストについて説明できる。</li> <li>・医療者の望ましい面接態度について理解する。</li> </ul>	柏木 純子 上原 任	D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション) E-2-1 初診時の医療面接 E-5-1 共通事項	

				(教2)pp.23-97	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習によって理解を深める。</li> <li>・演習成果物を提出する。</li> </ul>		
21,22	C D	6.24 6.24	5 ～ 6 7 ～ 8	<p>受講者数・SPの人数によってクラス分け・授業時間が変更になる。詳細は後日指示する。</p> <p>B分野⑥</p> <p>5. 医療面接におけるコミュニケーション技法</p> <p>6)「平常試験」(技能に関する課題) (教1)pp.19-31 (教2)pp.23-97</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬患者に対して次の内容を含む課題を実施し、技能に関する平常試験とする。</li> <li>・様々な症状・経過を有する患者に対する医療面接について評価できる。</li> <li>・様々な背景を有する患者との医療面接における、良好な患者・医療者関係について評価できる。</li> <li>・医療面接を観察し、改善点を指摘できる。</li> </ul>	<p>上原 任 紙本 篤 関 啓介 古地 美佳 竹内 義真 篠崎 貴弘 小笹 佳奈 寺嶋 利子 本橋 佳子 中島 一郎</p>	<p>D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション)</p> <p>E-2-1 初診時の医療面接</p> <p>E-4-3 インフォームド・コンセント</p> <p>E-3-1 基本的診断</p> <p>E-3-2 臨床推論</p> <p>E-4-1 診療記録の作成</p>
23,24		7.6	6 ～ 7	<p>C分野①</p> <p>6. 医療面接の概要</p> <p>1)初診時医療面接 I 「小テスト」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスとコンテンツについて学ぶ。</li> <li>・初診時医療面接の流れを学ぶ。</li> <li>・「アイコンタクト」、「共感的態度」、「解釈モデル」について理解する。</li> <li>・初診時医療面接における「主訴」、「現病歴」、「既往歴」、「家族歴」、「社会・生活歴」について学ぶ。</li> <li>・「要約」、「いい忘れの確認」について学ぶ。</li> <li>・患者の心理について学ぶ。</li> <li>・学修内容に関連した課題に解答する。</li> </ul>	<p>小笹 佳奈 篠崎 貴弘</p>	<p>D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション)</p> <p>E-2-1 初診時の医療面接</p>
25,26		7.13	6 ～ 7	<p>C分野②</p> <p>6. 医療面接の概要</p> <p>2)初診時医療面接 II 「小テスト」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療面接が診断のためにあることを学ぶ。</li> <li>・医療面接におけるコンテンツの重要性を学ぶ。</li> <li>・臨床推論の基本的な考え方を学ぶ。</li> <li>・医療面接で得られた情報から診断を推論する。</li> </ul>	<p>篠崎 貴弘</p>	<p>D-2-1 医療面接(病歴聴取と医療コミュニケーション)</p> <p>E-2-1 初診時の医療面接</p>

					・学修内容に関連した課題に解答する。		
27,28		7.20	6 ～ 7	C分野③ 6. 医療面接の概要 3)口腔外診査 「小テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般全身状態の診査の仕方を学ぶ。</li> <li>・身体所見から何がわかるのか、口腔外診査で何を得的なのか、そのために何を行うのかを理解する。</li> <li>・学修内容に関連した課題に解答する。</li> </ul>	篠崎 貴弘	D-2-2 口腔、顎顔面領域の診察、検査 E-5-1 共通事項
29,30		7.25	6 ～ 7	C分野④ 6. 医療面接の概要 4)口腔内診査 「小テスト」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科用チェアの構造と使用法について学ぶ。</li> <li>・口腔模型を用いて口腔内の視診方法について習得する。</li> <li>・各種口腔内の診査技術について習得する。</li> <li>・歯式の記載法について学ぶ。</li> <li>・学修内容に関連した課題に解答する。</li> </ul>	篠崎 貴弘	D-2-2 口腔、顎顔面領域の診察、検査 E-5-1 共通事項



